

特別セッション1

『地震により発生するテフラ層すべり』

2016年の熊本地震では阿蘇カルデラ近傍で、2018年の北海道胆振東部地震では支笏カルデラ東方で強い揺れが生じたため、これらのカルデラや周辺の火山を起源とする厚いテフラ層（火山灰・軽石など火山砕屑物の層）が丘陵斜面をすべり落ち、斜面下の住宅を巻き込むなどによって多くの尊い命が失われました。これまでの地震による斜面災害においても、急傾斜地の落石・岩盤崩壊や深い岩盤すべり、人工地盤の液状化に伴う流動などともに、テフラ層のすべり（slide）は注目されてきた現象でしたが、この数年間に発生した南北2つの地震災害により、その現象解明の重要性は高まっています。

本セッションは、強震動によって発生するテフラ層すべりに注目した調査・研究の発表を集め、その発生場の特徴や崩壊の形状、発生メカニズム、土砂移動プロセス、速度や到達距離など幅広いテーマについて討議することにより、この現象を総合的に捉えることを狙いとしています。それぞれの現象は遠く離れた地域で起こったものでありながら、発生メカニズム・運動プロセスなどに見られる共通点や、その反対に気候の違いに起因するテフラ層の風化や地形の違いに起因するテフラ層の分布・崩壊形態の相違点など、様々な角度からテフラ層すべりについて議論することで、地震による斜面災害軽減のための課題点や今後の研究の方向性を整理する機会になるのではないかと考えています。テフラ層すべりに関する調査・研究に取り組んでおられる方、ご関心をお持ちの方のご参集をお待ちしております。

世話人：石丸 聡（北海道立総合研究機構 地質研究所）

後藤 聡（山梨大学）

木村 誇（防災科学技術研究所）